

今後のGAPを取り巻く情勢を勘案した「ちばGAP」の策定について

1. GAPを取り巻くこれまでの経緯

(1)国は、「食料・農業・農村基本計画（平成27年3月）」において、国のガイドライン（平成22年4月）に準拠したGAPの普及・拡大を推進することを示した。

さらに、平成28年4月に「GAPの普及・拡大に関するアクションプラン」を策定し、県等が独自に取り組むGAPのガイドライン準拠確認や、重点的に推進すべき対象者の明確化などを示した。

(2)東京オリンピック・パラリンピック（以下、「東京オリ・パラ」という）の農産物の調達基準（案）が、昨年12月に組織委員会から示された。

(3)国では、東京オリ・パラを契機として、大手を中心とした農産物流通において、GAPの取組を求める動きが大きく加速すると予想し、平成29年1月に各都道府県に対し、GLOBAL G. A. P. 等国际水準GAPの導入推進やガイドラインに準拠した都道府県GAPの整備と、都道府県によるGAPの確認体制の導入などを求めている。

【参考】東京オリ・パラにおける「農産物の調達基準(案)」について(平成29年3月決定予定)

サプライヤーは、全ての物品サービスにおける共通条件(環境や人権等)に加え、特に農産物については、①食材の安全確保、②環境等との調和、③労働安全の確保を満たしたものの調達を行わなければならない。①～③を満たすものとして、

ア JGAP Advance、GLOBAL G.A.P.、組織委員会が認める認証スキーム

イ 上記で生産された農産物以外を必要とする場合は、

「国のガイドライン」に準拠したGAPに基づき生産され、都道府県等の確認を受けていること

※ アの認証は国内2%の産地しか取得していない。国産で対応するためイの基準を設定

※ 主要野菜は不足する心配があるとして、農林水産省では、本県など関東近県産地からの供給を期待している。

2. 千葉県におけるGAPの状況

(1)現状

- ア 県は、「千葉県農林水産業振興計画」(平成26～29年)において、GAP導入産地数の拡大を目標に掲げ、GAP研修会の開催や啓発チラシの配付等を行ってきた。
- イ 平成27年度に「千葉県における農業生産工程管理(GAP)推進方針」を定め、国のガイドラインに基づくGAPを推進することを改めて示し、指導者の育成なども併せて行うこととした。

(2)課題(GAPが普及しない主な要因)

- ア 生産者がメリット(所得向上等)を感じていない
- イ 生産者が負担(記帳・認証経費など)に感じている
- ウ どのように取り組んでいいのかわからない
- エ GAP指導者が足りない
- オ 流通、小売りから求められていない
- カ 産地などの組織の場合、構成員の合意形成が難しい

(3)課題に対するこれまでの取組

- ア 生産者および指導者向け研修会の開催
- イ 県職員を対象にGAP指導者育成研修を実施
- ウ 第三者認証GAP取得費用を補助する事業を実施

【参考】

県内のGAP取組状況(平成29年2月末時点の安全農業推進課調べ)

	産地数	備考
GLOBAL G. A. P. (第三者認証)	3産地	(3農場)
JGAP(第三者認証)	11産地	(31農場)
日生協GAP等(二者点検)	7産地	
JAGAP(内部点検)	49産地	食品安全が中心
計	70産地	

※この他に量販店GAP等がある

3. 対応方針

(1)「国のガイドライン」に準拠した「千葉県版GAP（以下、「ちばGAP」という）」を整備し普及拡大を図る。

(2)ちばGAPに基づいて生産していることを確認する制度をつくる。

〈期待される効果〉

ア 国際水準GAP（GLOBAL G.A.P.等）認証の足がかりとなり、輸出の強化につながる。

イ 東京オリ・パラ農産物調達基準に対応できる。

ウ GAPを県内農業者へ普及することで、食品安全や労働安全等の確保につながる。

【参考】GLOBAL G.A.P.、JGAP及び国GAPガイドラインの水準の比較（イメージ）

区分 \ 種類	食品安全	環境保全	労働安全	人権保護・その他
GLOBAL G.A.P. JGAP Advance	→			
ちばGAP	必須 →			オプション →
国のガイドライン	→			
内容（例）	<ul style="list-style-type: none"> ・農薬安全使用 ・衛生管理 ・異物混入防止 	<ul style="list-style-type: none"> ・農薬散布の周辺への影響回避 ・適正な施肥 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業環境改善による事故防止 ・機械等の安全管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・強制労働の禁止 ・使用者と労働者の対話 ・商品回収テスト ・水使用量把握と節水努力

※ちばGAPは、多様な農業者に対応し、かつ取り組みやすいものを目指す。

4 今後のスケジュール

平成29年3～5月 県におけるGAP確認体制等の検討（有識者会議等）

平成29年6月 県によるGAP確認制度の試行

～平成30年1月 （ちばGAPの実施、確認の試行、制度の修正等）

平成30年4月～ ちばGAPの普及及び確認制度の運用開始

ちばGAP確認制度検討スケジュール【平成29年度】

平成29年3月16日現在

		1月		2月		3月		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月	
		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
工	程	<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="width: 20%; text-align: center;"> <p>制度設計</p> </div> <div style="width: 60%; text-align: center;"> <p>ちばGAP(β版)の実施(地域推進産地)</p> </div> <div style="width: 20%; text-align: center;"> <p>公表</p> </div> </div>																													
		<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 20%; text-align: center;"> <p>会議意見を踏まえた制度案修正審査基準の検討</p> </div> <div style="width: 20%; text-align: center;"> <p>ちばGAPの普及推進計画検討</p> </div> <div style="width: 20%; text-align: center;"> <p>ちばGAP普及資料検討 実施マニュアル、推進・審査マニュアル、啓発資料等作成</p> </div> <div style="width: 20%; text-align: center;"> <p>評価員等育成研修</p> </div> <div style="width: 20%; text-align: center;"> <p>確認審査試行</p> </div> <div style="width: 20%; text-align: center;"> <p>制度案最終調整</p> </div> <div style="width: 20%; text-align: center;"> <p>制度のPR資料作成</p> </div> </div>																													
有	識	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 20%; text-align: center;"> <p>第1回検討会議 (ちばGAPの内容、確認制度、普及推進)</p> </div> <div style="width: 60%;"></div> <div style="width: 20%; text-align: center;"> <p>第2回検討会議 (ちばGAP確認制度及び運用、普及推進等)</p> </div> </div>																													
		<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 20%;"></div> <div style="width: 60%;"></div> <div style="width: 20%; text-align: center;"> <p>第3回検討会議 (試行結果を受けた制度の修正等)</p> </div> </div>																													